



S&Dスポーツパーク富士見をフィールドとしてさまざまな世代、さまざまに暮らす市民の皆さんにとっての居場所をつくっていく「ポットラックプロジェクト」のトークとイベントが3月2日と3日の2日間、子ども広場で開催されました。両日、延べ700名以上が参加されました。このレポートでは、当日のイベントの様子や、トークの内容をご紹介します。



イベント!

## ポットラックピクニック 02

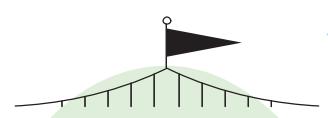
# ポットラック ピクニック vol.2

2回目となる今回は、ワークショップで考えた公園での過ごし方を実際にやってみるお試しイベントです。「みんなで持ち寄る、公園の楽しみ方」公園で「チル」する2日間」をコンセプトに、12のプログラムが展開されました。



### ボッチャル(ボッチャll chill) フェス

広場の木々の中、ハンモックやテントのなかで本を読んだり、ばーっとしたり。子供たちの秘密基地になりました。



### ジャングルジム おわかれ会

老朽化したジャングルジムへのありがとうをカードに書いてデコレーションしました。夜はイルミネーションで幻想的な雰囲気に。



### おひさま SUN サン 蓄電池を使おう

災害にも便利な蓄電池を知つてもらう体験ブース。スマホ充電から、おもちゃまで?!



### おひさま SUN サン 太陽の力で ソーラークッキング

天気に恵まれ、ソーラックッカーでホットドッグや焼き芋、ちらし寿司まで調理できました。



### 火おこしから! 焚き火と 持ち寄りキャンドルナイト

焚き火では、みんなが持ち寄りした食べ物をシェアながら初めての人とも輪になってお話し。持ち寄りキャンドルナイトと音楽も相まってチルな夜になりました。



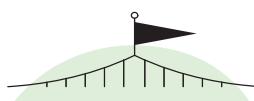
### にじいろ フリーマーケット

不要なものを次のだれかのもとへバトンタッチ。洋服から食材までさまざまなものが出品されました。



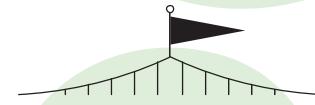
### サステナブルな お買い物の体験

手づくりのグッズを使って、お買い物体験!旬の食材が環境にも良いことなど、楽しく学びました。



### フード & ドリンク出店

市内のパン屋さんやカフェが出し、フードやドリンクはもちろんのこと、おしゃべりも楽しんでいました。



### おもちゃ病院と 手づくりおもちゃ教室

子どもたちに大人気だったおもちゃ病院と手作りおもちゃ教室。2日間きた子ども。



### △当日企画△ 健康体操をやってみよう

ゲリラ的に開催された、健康体操。普段室内で行っていますが、外だとのびのび、まわりのかたも一緒にエクササイズ。



### 羽村のおすすめ 情報を集めよう

地図に市内のおすすめ情報をマッピング。地図をしながら会話をはずみました。



### とっかえっこロイダック

気に入った洋服を受け取った人が、翌日使わなくなった服を寄付に。子ども服を中心に、物々交換の輪がひろがりました。



トーク!

## 持ち寄るたのしみと、公園という居場所



コミュニケーションデザイナー  
関西学院大学建築学部 教授  
studio-L ほか

山崎 亮 氏

### ポットラックプロジェクトについて

1人でも過せる、まちの居場所をつくるというこのプロジェクトを聞いて、ヘンリー・ディヴィッド・ソローという人を思い出しました。150年も前の人ですが、端的に言うと、キリスト教では7日間のうち6日間働いて1日休もうと提唱していますが、お金をあんまり使わない生活をすれば7日間のうち1日働いて6日間は自分の好きなことをやれるのではないか、2年と2か月と2日実践した人です。例えば服も高い服や外から入ってきたものを買って生活すると、7日間のうち6日は働かないといけないかもしないけれど、みんなで交換したり、壊れたおもちゃを直したりすれば働く日はもっと少なくしてもいいよ、と。羽村市で例えると、休日も外に出て行って羽村市外でじゃんじゃんお金使って帰ってきました、ではない過ごし方。**羽村市内にチルできる場所、あんまりお金を使わずにいいなと思える仲間といい感じに過ごすことができる場所があると、この働く時間を小さくしながらお金を使わずに楽しい時間を増やすことができるのではないか**と思います。そういう場所が今は羽村に足りないので、そういう場所や機会をつくろうと思ったという羽村市の意志と、それに応じて確かにと言った集まつた市民の方々がここにいらっしゃるので、良いプロジェクトになると感じています。みんなでにぎやかなことをやらなきゃいけないではなくて、はじまりは小さく、でも楽しんでいたらあなたも毎週来てますね。といった人同士がちょっと知り合いになれるというような進め方でもいいのかなと思いました。

### 四季を通じて試していく

では、そういうたのしみをどのように、さまざま人の日常に浸透させていくかですが、これは何回かここでイベント的に体験することでしょうね。少なくとも四季を通じた方がいいと思います。**春夏秋冬で公園というのを一体どういう場所なのか、冬だったらこんなことをしたいし、夏はこういうことはできるけどこういうことはやりたくないな**というのを一通り体験すると、家の中でやっている活動のどの部分だったら持ち出せるかというのがリアルに現実感をもって想定ができるようになります。だから家中で生活をしているときに、これって公園でできるかもと思いつく頻度が上がってくるまでまずは待つというのが大事だと思います。四季を通じて公園の状況がありありと思い浮かべられるようになると、ご自宅にいる間も、これ公園でできるかも、という、庭じやなくて公園でやった方が楽しいものなのかもと思えると思います。室内でやっていることを庭に出てやってみるとか、思い切ってイベントの時に、公園に持ち寄ってみるとか、他の方がやっているのを見たり、他の方と話をしてみたりしてこれでいいんだと試していくける日常になると良いですね。



### 「で」より「が」、「が」より「で」

少し例え話をしますが、昼ご飯何たべたい?って言った時に、うどん「で」いいよっていうのは、少し消極的な印象がありますよね。うどん「で」いいっていうのは、聞いた人に対しても失礼だし、何よりうどんに対して失礼。やっぱりうどん「が」いいっていうのが良いんじゃないかと思いますが、うどん「が」いいっていう、この「が」がたくさん出てくるとそれはそれで疲れるまになってくるんですね。「が」がたくさん集うと、コミュニティとしてはちょっとめんどくさい。その「が」をもう一度超えて、これ「で」いいと言える「で」になる。最初の「で」は消極的で、あんまり良くないのですが、「で」を超えた「が」の先にある「で」は納得感がある「で」なんです。この「で」のようなものが、この羽村の公園に持ち寄られてくると、それでいいよね、ああそれでいいよねといううでの出来上がる。私が、とか、これが、みたいなものが集うのはちょっと疲れるかなというようなそんな気がしましたね。



### 道具を追求する

道具ってけっこう大事で、道具を深く考えることこのチームのみんなでやられると楽しいかもしれません。テクノロジーにあまり寄せないというか。道具を便利にしていくうとしていけばいくほど利便性は高まっていくのですが、ある程度を超えると快適性が下がるということが起きるんです。家から公園を持って来られるもので日常を公園につなげようと思った時、重要な要素になるのが道具で、座るもののが軽かったり座り心地が良かつたりするといいんですが高級すぎたりすると合わない、かといって持ち運びやすいが、硬くて座り心地が悪いものもない、ちょうどいい間にあらうようなものをひとつずつみんなで探して、それを大切にしていくことができれば、家の中にあった日常を公園に行動として持ち出すことができる気がしますね。

### 自分たちの哲学を持つ

まちづくりの手法としては、外からきた企業がイベントを行ったり、有名なチェーン店を呼ぶという考え方もあります。そうではないにしても市民参加型で準備して大きなイベントを1年に1回やってみた、みたいなやり方もあるかもしませんが、このプロジェクトはこれまでとは違うようなじわじわ長く続いている自分の人生の日々の生活をちょっとだけ面白くしてくれるような出来事と仲間が増えていくことが重要だと思います。ただ、これはあまり周知されづらい。何かお金につながりそうであれば様々なメディアに登場する。だから私たちが目にするメディアで登場するイベントってだいたいきらびやかなものが多いと思います。それは常に協賛企業がいるということを忘れないようにしておいた方がいい気がします。そんなことは関係なく、日常を少し楽しむするということを考えられる、**自分たちの哲学を持つことが大切**だと思います。

### Q and A

事前に届いたお便りと、  
当日会場からでた質問の一部を紹介！

Q.1  
studio-L の  
社名の由来は？

A.

19世紀の思想家でジョン・ラスキンという人が書いた本の中の「There is no wealth, but life」という言葉があり、「人生こそが財産である。」ということだと考えています。人生という財産をどう活かしていくかを考え実践する事業をこれからやれたらいいなと思いまして、社名にしました。

Q.2

持続的な活動になるために  
地縁組織や他の団体との  
関係をどう築けばいい？

A.



まず公園での取り組みを成就させておき、活動の知名度と経験値が上がった後に、町内の方と共に何かをやろうとやり始めること。その時には、なぜこういうことをやらなければいけないのかという、大切にしたいという思いを共有するということに時間かけるのがいいと思います。3年くらいかかると、じわじわと町内の方にも響いていく。最初の出会いが大事で、それによって対等に話してくれるかどうかも決まりますので、ちゃんと狙った上で、一緒に地域のためになることを考える仲間になり、企画をし、実現していくのが良いでしょう。あまり焦らず、時間をかけて公園の活動を地域に展開していくと思うのがいいのではないかと思います。

# ポットラックプロジェクトはこれから！

2024年度もポットラックプロジェクトに取り組んでいきます。

四季を通して「トーク」「ワークショップ」「イベント」を定期的に開催していきます。

みなさんの興味にあわせて、取り組みに必要な道具をつくる会や、情報発信について学ぶ勉強会などのスピンオフ企画も開催していきたいと思っています。どなたでも参加できますので、一緒にはじめましょう！



## トーク

2024年  
1月28日  
2月10日  
3月2日開催

全国の公園や公共空間で活動するゲストから、ヒントをもらうポットラックトーク。



## ワーク ショップ

2024年  
1月28日  
2月10日  
2月18日開催

参加者同士でおしゃべりを楽しみながら、公園でどのように過ごしたいか考えるワークショップ。



## イベント

2024年  
1月13日  
3月2・3日開催

ワークショップで考えた過ごし方を試してみるポットラックピクニック。



興味のある方はぜひ羽村市の  
ウェブサイトへのアクセス、  
ライン登録をお願いします！  
ご参加、お待ちしております！

羽村市  
公式サイト  
はこちら！▼



ポットラック  
プロジェクト  
公式LINE  
はこちら！▼



## 本事業に関するお問い合わせ

羽村市「3つプロジェクト」  
(事務局：羽村市まちづくり部土木課公園管理係)  
042-555-1111(内線 282・283)